

# 様式 a

## 不祥事防止のための 心理と行動のワークシート

### 体罰

[様式a]相手への制裁・報復を  
目的とする行為編

このワークシートは、平成 30 年度以降、実際に起きた埼玉県事例から「体罰のうち行為の目的を相手への制裁・報復とするもの」に該当する複数の事例を抽出し、共通する出来事や事故者の心理状態など\*1 を分析、認知行動療法の考え方\*2 を取り入れて作成したものです。不祥事を起こすに至るまでには、行動に先立つ思考過程のパターンがあります。ワークシートを使って自分をモニタリングしてみましょう。

\*1 掲載に当たっては実際の事例を参考に、改変を加えている。

\*2 問題のある行動につながる考え方の癖、いわゆる認知の歪みを認識して、適切な考え方・行動へ向かわせる手法

出来事		不祥事へ向かわせる 心の声	不祥事を思いとどまらせる 心の声
日常の段階から、不祥事の発生、発覚に至るまでの経過を自分事としてたどってみましょう。		出来事に対応する心理としてあなたの思いに近い方の□にチェックを入れ、更に思い浮かべることがあれば( )の中に記入しましょう。	
日常	手のかかる生徒の一人。保護者から相談を受けることも多い。	<input type="checkbox"/> 生徒と本気で向き合い、自分の方法で良い方向へ変えていきたい。( )	<input type="checkbox"/> 校内で一貫した方針で対応していくことは大切。( )
指導方針への不満	問題行動がある度に周りの教員が生徒に注意しているが一向に改善しない。	<input type="checkbox"/> 困っている教員は多い。このままのやり方では良くなならない。( )	<input type="checkbox"/> どうやって改善していくべきか、改めて教員同士で考えよう。( )
個別の指導	生徒の問題行動があった。多目的室に呼び出し、自分一人で指導を始めた。	<input type="checkbox"/> 自分の言うことは素直に聞くことが多い。自分が引き受けよう。( )	<input type="checkbox"/> 自分だけでは間違った判断をするかも。( )
印象付け	威圧的に怒鳴る指導を行った。	<input type="checkbox"/> あえて厳しさを見せることが必要な機会だ。怖さが無いと変えられない。( )	<input type="checkbox"/> 毅然とした態度と威圧的な態度。分けられているだろうか。( )
相手の態度の確認	生徒は反省の言葉を口にしたが、その態度にはふてくされるような気持ちが溢れていた。	<input type="checkbox"/> 思いがまるで伝わらない。真に反省していないことに苛立つ。( )	<input type="checkbox"/> 冷静に！相手がどんな反応でもまずは落ち着いて受け止めよう。( )
音で威嚇	傍にあった机を蹴り、壁を叩いて大きな音を出して生徒を威嚇した。	<input type="checkbox"/> 反抗的な態度を取ったらどうなるか教える必要がある。( )	<input type="checkbox"/> 怒りのピークは6秒。6秒待って一旦離れて対処法を考えよう。( )
身体に接触	生徒の胸元を押し、壁際に追いやった。	<input type="checkbox"/> 時には徹底的に体当たりで向き合うことが大事。( )	<input type="checkbox"/> 向き合う指導は対話でできるはず。( )
強い攻撃	驚くような表情を見せた生徒に、「わかってんのか」と言い、頬に平手打ちを繰り返し行った。	<input type="checkbox"/> 迷惑をかけられて周りが味わった苦しみをわからせるための指導だ。( )	<input type="checkbox"/> 「時には暴力も必要」と、誤った認識を持たせてしまうのでは。( )
目的の達成	生徒は反省と今後の行動を改める言葉を口にした。	<input type="checkbox"/> やっと素直さが見られた。必要な指導であった。( )	<input type="checkbox"/> 素直にさせたのではない。力関係でねじ伏せたに過ぎない。( )
正当化の行為	生徒の保護者に電話をした。生徒の問題行動と、それに対する厳しい指導を行ったことを告げると、保護者から御礼の言葉を受けた。	<input type="checkbox"/> 日頃保護者に感謝されている。自分の思いをきちんと伝えてわかってもらえれば問題にならないだろう。( )	<input type="checkbox"/> 生徒が味わった痛みと恐怖はどれほどか。取り返しの付かないことをしてしまったことを自覚しなくては。( )
発覚	保護者が管理職に連絡して発覚。事情聴取を受けた。(警察・学校・教育委員会)懲戒処分を受けることとなった。	最初は相手を思っただけの行動だったが、結果的に相手の心に深い傷を与えることになった。地道に作り上げてきた生徒や保護者との関係が壊れてしまった。	

## セルフトーク 自分自身のモニタリングをしてみましょう。

「不祥事へ向かわせる心の声」が強いところや、「不祥事を思いとどませる心の声」が弱いところほどの段階でしたか。

(記入しましょう)

あなたが、不祥事に向かう段階を確実に防ぎ止められると思うのはどの段階ですか。それは何故ですか。

(記入しましょう)

あなたにも事故者の特性と共通するものがないか考えてみましょう。

- ◆参考◆ 事例分析から見えた事故者の特性の共通点(ここに掲げた特性に当てはまる者全てが問題のある行為を行うわけではありません。多くの教職員に当てはまるものもあります。)  
生徒をより良く変えたいと思っている／生徒の性格や課題をよく把握している／周りからは厳しくて言うことは言う先生だと思われる／  
頼りになる存在になりたいと思っている／取り繕うことや素直ではない態度を許せないと感じる

(記入しましょう)

あなたが今、大切にしたいと思っていることは何ですか。(あなたが「大切にしたいこと(人・物など)」は、不祥事を思いとどませるためのブレーキです。もし、あなたが不祥事を起こしてしまったら、「大切にしたいこと」を守ることができなくなってしまうかもしれません。)

(記入しましょう)

## 防止策 不祥事を食い止めるためにできることを考えましょう。

あなたの「不祥事へ向かわせる心の声」を「不祥事を思いとどませる心の声」に切り替える方策は何ですか。

(記入しましょう) 考え方 :

(記入しましょう) 具体的な行動:

あなたが同僚だった場合にできることは何ですか。

(記入しましょう)

あなたの職場には、児童生徒に対して威圧的な態度で接することが良しとされている雰囲気がありますか。

なし・あり(ある場合には具体的な内容を記入しましょう)

このような事故を起こした場合に問われる①～④の責任について、それぞれ具体的に考えましょう。

(記入しましょう)①行政上の責任:                      ②刑事上の責任:                      ③民事上の責任:                      ④社会的な責任:

同じような事故を、あなたの職場で絶対に起こさない・起こさせないようにするために、みんなで取り組めることを考えましょう。

(記入しましょう)